

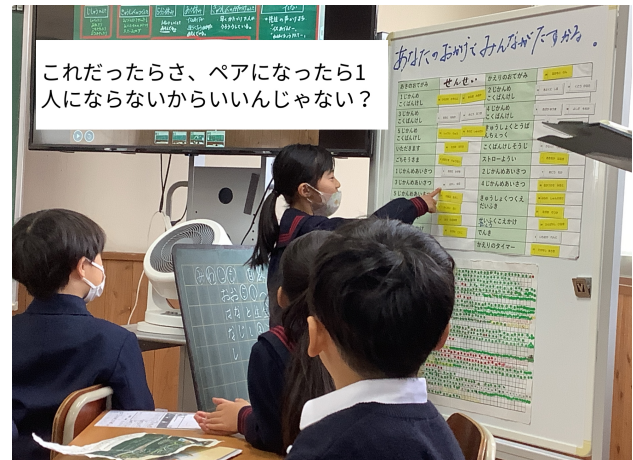
課題「自分たちでできるように、どんなさくせんをたてるか？」

<1-1自分たちでできるぞ大きくせん>

本時は、先生の力を借りずに自分たちの力で生活していくための学級生活の工夫について、現在の自分たちの生活における問題場面から解決案を出し合い、友達の考えと自分の考えを比較したり、相談して検討したりして学級全体で合意形成をすることを通して、学級のみんなで取り組むことを決めていく学習であった。



児童は、「先生がこえかけしなくても」「じしゅうやきゅうしょくとうばんがいているとき」という場面で、自分たちの力だけで行動したり静かにしたりするために、これまでの話し合いの黒板の写真(手元のワークシート・TV)や当番表、これまで取り組んできた机の上に貼っているチェックカード等を「振り返り(情報)」として活用しながら意欲的に話し合っていた。一人でじっくり考えたり、隣の友達と相談したりしながら、自分の考えと友達の考えを比較して、賛成意見や反対意見を発言していた。



指導・講評では、文部科学省初等中等教育課程課の和久井調査官から、「1年生の話し合いでは、今日の木村先生みたいに司会や黒板にまとめることを先生がしてあげたらいい。発達段階に合わせて児童に任せていくと、先生の姿を手本にしながら自分たちでできるようになってくる。」「話し合う場面が4つだと、1年生が45分で話し合うのは難しい。話し合う時間の確保や、1年生に合わせた黒板の文字の量を考慮すると、2つくらいの場面にしぼるとよかったのではないか。」等のご指導をいただいた。

